

市政懇談会「留萌おもいやり・おもてなし物語」開催結果報告

【市長あいさつ】

みなさん、こんにちは。今日は寒いですが、商店街の方で子どもたちがハロウィンということで、各お店の協力をいただいて、久しぶりに賑々しく活動している子どもたちもいますから、やはり若い世代の人がいるということは、活気の一つのバロメーターかなと思います。こんなことを思いながら、市役所の玄関にある人口を見ると、22,600人程度となっている。人口問題というのはこの国全体が大変なことです。噛みしめなければならない数字です。私が高校時代は42,000人程度ですから、これが留萌の人口のピークとなります。しかし、実は人口減少というのは、先進国など国が豊かになっていくと、多産多死から少産少死となる。これはどの国でも豊かになると経験する数値となる。今、北海道では札幌に集中傾向にあり、全国的には東京に集中傾向にある、これは経済の部分でそういう部分があるかもわかりませんが、少子化というのは大きな流れの歴史の中ですから、私達はこの少子化問題を、ある意味ではマイナスに捉えるのではなく、覚悟を決めて、この地域ではこれだけの人口でこういう形で、しっかりと前向きに生きていくという覚悟を決めなければならないと考えます。

公共のサービスを全て行うということも、やはり財政が厳しい中では大変だということで、協働ということで全ての市民の皆様方に参加していただく、協力していただく、そういう形の中で今日まで市の行政を進めてまいりました。ですから、これから市民の皆様方に参加していただくのは、新しい市民が覚悟を決めたときのまちづくり、新しいタイプのまちというのはどういうまちなのかということ、行政と市民の皆様方で、しっかりとお互い共感をして、共有をして、そして組み立てていかなければならないと思っています。

そして、来年3月26日、北海道に新幹線が来ます。新幹線が函館まで来たときに、北海道にどういう車両で函館、稚内、網走、釧路、根室などへどのように列車を走らせるのかということは、大きなタイトルだと思います。列車というのは子どもにとって夢でした。私も子どものころは、蒸気機関車が留萌駅に来ると、これを毎日見るのが夢でした。この後は、ディーゼル機関車でした。これもディーゼルというのはすごいなというふうに見ていたというのが今でも覚えていますから、子どもたちに夢を乗せる列車というのをJR北海道に走っていただきたいという強い思いをもっています。

ですから、私共は、自治体経営も、公共サービスとしてあまりにも負担の多い部分につきましては、やはり、市民の皆様とじっくりと相談をしながら、ある意味では市民の協力をいただきながら続けていくものであると思いますので、覚悟を決めて、残念ながらこの事業に関しては、行政としてはなかなか難しいという場合には、そういう判断が迫られるのではないかと考えております。

留萌のこれからの5年、10年先のことを考えますと、ちょうど千望台に立っている五十嵐億太郎がなくなったのは1929年で、今年で86年になりました。

これから14年後、五十嵐億太郎が亡くなって100年です。この100年の歴史の中で、私達は歴史をどう作ってきたのかということですから、私達はもう一度、五十嵐億太郎の足跡について、留萌港をつくり、留萌川を切り替えた大事業、そして大和田や藤山、この地域がどういうマチで歴史をもって、どういう人がこの町をつくってきたのかということをもう一度共有しながら、そして、共有共感をした中から、この地域の地場産業はどうなってきたのか。過去には木材工場もたくさんあり、鉄鋼業も大きなものがありました。しかしながら、経済の流れの中で大きく変わりました。水産加工業が何とか頑張ってくれていますから、留萌の大きな基幹産業、地場産業の一つです。ですから、もう一度留萌の町並み、留萌の経済、これらをもう一度市民の皆さん方と共有をしながら、やはり、地方創生に向けて、私達が生きていくには、やはり、ものづくりや観光産業をどうするかという2つだと思いますから、観光産業のためには、「おもいやり・おもてなし」、市民の皆さん方が共有共感しながら、自分たちができることに積極的に参加をいただきながら、何とかこの厳しい時代を乗り越えていかなくてはいけないと思っておりますので、市民の皆さん方にも町内会の活動を含めて、今日までも色々な部分でご助力をいただいておりますので、今一度、皆さん方と留萌のまちについて、そして、これからの10年、14年後の留萌のビジョンをお互いに抱きながら、それに向かって覚悟を決めて、頑張っていかなければならないと考えております。

昨日、和歌山で国体がありました。障がい者のスポーツ大会に出て、フライングディスクというもので金メダルを取ったという報告がありました。金メダルということは、日本一になったということですから、これはすごいことだと思います。また、留萌青年会議所の方々が、音楽合宿ということで青年会議所の中で地方創生のテーマに向けて、コンテストに出したところこれも日本一になりました。それが留萌にはまだまだ可能性、潜在力があることの証明だと思っておりますので、まさに皆様方とすばらしい人材がこの地域にいるということを共有共感しながら、次の世代に向けて、子どもたちが夢や希望を持てるような、そしてお年寄りが安心して住める地域をしっかりと作ってまいりたいと思っております。

今日はこうしてお忙しい時間帯にお集まりいただきましたことに、改めて心から感謝を申し上げ、ごあいさつにしたいと思います。今日はよろしくお願いいたします。

【市からの報告】

1) 留萌市の人口ビジョン

これから25年後（2040年）の想定人口

2) 留萌市中期財政計画

3) 船場公園の運営管理について

～市民と来訪者との交流の場～

4) 今年の除排雪計画について

【グループ別意見交換】

- ・参加者を8班に分け、各班においてJR留萌線の廃線についての意見交換のほか、市からの報告や市政全体に関する意見交換を実施した。
- ・詳細については別紙のとおり。

【終わりに（市長あいさつ）】

留萌にあるそれぞれの企業は何とか新しい展開を目指して、新しいことにチャレンジをしながら、夢や希望を持てるような政策的にも支援をしていかなければならないと思っております。最初に申し上げましたけれども、留萌の水産加工業、そして農業の中でも6次産業化の取り組みというのが進んでおりますので、農業から漁業、そして水産加工の中で、この地域のものづくりをしっかりとやっていきたいと思っております。

過去には林業も大きな産業の一つでありました。今、トドマツ材が韓国、中国に輸出されることになりましたので、港に今もトドマツ材が積まれておりますけれども、これを継続的に、ある意味では為替が100円を切らない限り、金銭的には何とかやりくりできるというお話もありますから、何とか120円程度の為替でいていただき、安定していければいいのかなと思っております。もう一度、留萌の歴史を振り返りながら、石炭、木材、そしてこの地域の水産加工業を皆さん方で守るべきものは守るという意識の中で組み立てていきたいと思っております。

今年度の市政懇談会に出席いただいた方のご意見というのは、間違いなく市政に反映しながら、できることについては、しっかりと責任をもって取り組んでまいりたいと思います。改めて、お集まりいただきましたことに、心から感謝を申し上げ、最後の挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。